

新規事業採択時評価結果（平成19年度新規事業化箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：木村 昌司

事業の概要

事業名	一般国道420号 足助バイパス	事業区分	補助	事業主体	愛知県
起終点	自 愛知県豊田市井ノ口町 至 愛知県豊田市安美京町			延長	L = 3.4 km

事業概要

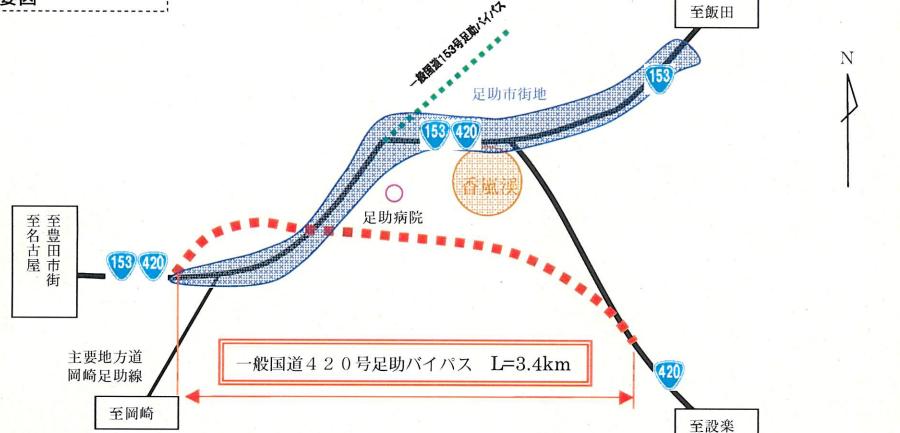
一般国道420号は、愛知県豊田市を起点とし北設楽郡設楽町を経由し、新城市に至る総延長約86kmの主要幹線道路であり、豊田市内においては、H17.4に合併された旧東加茂郡の町村と豊田市中心市街地を連絡する。本計画区间は、豊田市井ノ口町から豊田市安美京町までの延長約3.4kmの区间であり、愛知県の奥三河と尾張都市部の連絡道路として広域ネットワークを形成する他、沿線には足助病院、学校、公共施設及び観光名所である香嵐渓が隣接している。

事業の目的、必要性

本区间は豊田市山間部の中心地である足助市街地にあたり、現道は国道153号との重複区间を除くと、歩道の無い2車線道路である。また、沿線には学校、病院、公共施設等が立地し、朝夕の通学時には歩行者等が危険にさらされている状態である。さらに、沿線には紅葉の名所である香嵐渓もあり、秋季には慢性的な渋滞を引き起こしている。このような状況の改善、及び県内東西交通軸強化に伴う地域経済の活性化を図るために、

全体事業費 70 億円 計画交通量 6,200台/日

事業概要図



関係する地方公共団体等の意見

地元意向として、豊田市（市議会自民クラブ・豊田市幹線道路整備促進協議会）及び奥三河幹線道路整備促進協議会より早期整備の要望を受けている。

事業採択の前提条件

費用便益：便益が費用を上回っている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	3.9	総費用	57億円	総便益	224億円	基準年
			事業費	55億円	走行時間短縮便益	205億円	平成18年
感度分析の結果	交通量変動	B/C=3.5	(交通量 -10 %)	B/C=4.3	(交通量 +10 %)		
	事業費変動	B/C=3.6	(事業費 -10 %)	B/C=4.3	(事業費 +10 %)		
	事業期間変動	B/C=3.9	(事業期間 -1年)	B/C=4.0	(事業期間 +1年)		
事業の影響	評価項目	評価	根拠				
自動車や歩行者への影響	渋滞対策	◎	渋滞損失時間の高い区間の減少が見込まれる。 【渋滞損失時間の改善】 【1kmあたり（台kmあたり）渋滞損失時間】約7.8万人時/km（現況） 全国平均：約2.0万人時/km（約3.9倍） 愛知県平均：約4.9万人時/km（約1.6倍） 【渋滞度曲線】愛知県内センサス区間の上位2割に含まれる。 【その他の特徴】第4次渋滞ポイント2箇所（追分歧点・宮町交差点）				
	事故対策	-	【死傷事故率】約88.8件/億台km (死傷事故率比（県内平均比）0.81) 全国平均：約102.3件/億台km 県平均：約109.5件/億台km				
社会全体への影響	歩行空間	○	現道では、人家連坦地区の歩道未整備・狭小区間が問題であったが、本バイパス整備によりこの問題も同時に解消され、歩行者に安全な歩行空間を提供できる。				
	住民生活	○	通過交通と地域内交通の分散が図られ、特に紅葉の名所「香嵐渓」周辺における観光期の慢性的な渋滞が緩和されることにより、住民生活の質的向上に寄与する。				
	地域経済	◎	奥三河地域の幹線道路・東西幹線軸として、奥三河から豊田市街地及び名古屋市等へのアクセス向上により、地域を支える農林産業や観光産業の更なる発展に寄与する。				
	災害	○	第二次緊急輸送道路の強化と共に、災害拠点病院に指定されている足助病院へのアクセス向上が図られるため、円滑な災害活動の遂行に寄与する。				
	環境	○	トンネル等を採用し、自然豊かな当地域の地形を大きく改変することがないよう、配慮している。				
	地域社会	○	豊田市街地及び名古屋市を中心とした尾張都市地域へのアクセス向上により、当地域での定住人口の増加を誘導し、過疎化の解消に大きな期待ができる。				
	事業実施環境	○	地元自治体との調整状況も良好であり、特に問題ない。				

採択の理由

費用便益比が3.9と、便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。
当該事業の実施により広域ネットワークの形成に寄与し、また当該事業箇所の渋滞損失時間が大きく渋滞対策の必要性は高く、事業効果が高いと判断できる。
以上により、本事業を採択した。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。